

職員調査 集計結果

京都市朱雀第三児童館

調査期間：2019年4月25日～5月15日

回答数：7名

一般財団法人 児童健全育成推進財団 第三者評価室

評価項目		標準項目	評価(4段階のうちどれか1つに○)			
			できている	できていないところがある	できていない	知らない・分からない
A-1	遊びの環境整備を行っている	1. 遊ぶ際に守るべき事項(きまり)が、利用者に理解できるように決められている	3	4	0	0
		2. 乳幼児から中高生までの児童すべてが日常的に気軽に利用できる環境がある	5	2	0	0
		3. 利用者が自発的かつ創造的に活動できるように環境を整備している	2	5	0	0
		4. 幅広い年齢の児童が交流できる場が日常的に設定されている	4	2	1	0
A-2	乳幼児と保護者への対応を行っている	1. 乳幼児と保護者が日常的に利用している	7	0	0	0
		2. 乳幼児活動が年間通じて実施されており、その内容が参加者のニーズに基づいたものになっている	7	0	0	0
		3. 保護者同士が交流する機会が設けられており、保護者が企画や運営に参加している	2	2	2	1
A-3	小学生への対応を行っている	1. 職員が個々の児童の状態や心理を考慮して適切に援助している	4	3	0	0
		2. 職員が個別・集団援助技術を念頭において、個人や集団の成長に向けて働きかけている	6	1	0	0
		3. 障害の有無や国籍の違いを超えて、児童と一緒に遊びお互いに理解を深め合える取り組みが行われている	2	4	1	0
		4. 行事やクラブ活動が、日常活動とのバランスや児童の自主性・社会性を育てることを意識して企画されている	7	0	0	0
A-4	中学生・高校生世代への対応を行っている	1. 日常的に中学生・高校生世代の利用がある	4	3	0	0
		2. 中学生・高校生世代の子どもが自主性や社会性を養えるような活動を継続して実施している	2	4	1	0
A-5	子どもの権利を尊重した支援を行っている	1. 子どもの意見を述べる場や意見を生かす事業が提供されている	5	2	0	0
		2. 子どもからの相談に日常的に対応できる雰囲気がある	4	3	0	0
A-6	配慮を要する児童・家庭への支援を行っている	1. 保護者からの相談に日常的に対応できる体制がある	7	0	0	0
		2. 障害のある児童の利用に対応する支援策が整っている	2	4	1	0
		3. 虐待を受けている疑いのある子どもの情報を得たときや、虐待の事実を把握した際には、組織として関係機関に連絡し、その後も連携できるような体制を整えている	7	0	0	0
A-7	地域の児童の育成環境づくりを行っている	1. 住民による子育て支援活動や健全育成活動を促進している	6	1	0	0
		2. 地域社会で児童が安全に過ごせるような取り組みをしている	4	3	0	0
		3. 児童館運営協議会等を設け、地域住民と共に育成環境づくりを検討する機会がある	7	0	0	0

京都市朱雀第三児童館 職員調査 選択項目



■ できている ■ できていないところがある ■ できていない ■ 知らない・分からない

評価項目	自由記述
A-1 遊びの環境整備を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・「じどうかんのルールブック」を作成し、利用者に分かるよう館内数か所に掲示している。 ・乳幼児親子から中高生までが利用しやすい雰囲気を作るようにしているが、十分なスペースがなくあそび場や活動が若干制限されてしまうことがある。その分、世代間交流がはかられていないと感じる。 ・玄関にボードを置き、イベントを告知し、気軽にあそびに来れるようにしている。あそびのルールもポスターに書き、みんなが見やすい場所に貼っているが、細かいので、低学年には分かりづらい気がする。自由来館で来る子が個人的に持ってきたゲーム機やカードでもめることがあったので、気をつけていきたい。 ・「あそびのルールブック」があり、児童館内にも子ども達が見やすい位置に掲示されている。おもちゃの片付け場所も分かるように写真で戻す場所を示しているが、全てではないため、まだ整備の必要がある。 ・それぞれの年齢の子が自由に居場所を見つけ、リラックスできる環境の中で、自然と異年齢交流ができるような見守りが大切だと考える。赤ちゃん連れ親子が来館した時には、小学生が喜んで関わり、保護者が安心している姿を見るとほほえましい。 ・利用者が使用する玩具に関して、安全性に欠ける(部品の壊れ等)ものもあり、定期的に見直す必要がある。 ・限られたスペースの中で、常に80名近い子ども達が、楽しく安全にあそべるように、おもちゃ、工作材料の整頓や、あそびのコーナー化等を行っている。
A-2 乳幼児と保護者への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・乳幼児クラブでは半年に1回、保護者にアンケートを取り、ニーズ把握に努め、活動内容に活かすようにしている。 ・乳幼児クラブで交流をもった親子がランチタイムも利用している。絵本を借りにくる親子等にも、おすすめの絵本や遊びの提案をしている。 ・乳幼児クラブ、広場ともに利用があり、ランチタイムを利用される方も多い。保護者が企画、運営に参加できるものは全くない。 ・月齢に応じた設定内容のクラブ、0歳児については随時、入会できるようにしていること(待っているはその月齢は大きくなってしまふこと、0歳児の保護者の不安は大きいこと)、発達年齢に応じたクラスの決め方等、柔軟に対応していること等、丁寧に対応していると感じる。 ・乳幼児親子に向けて、クラブの中で相談を受けたり、ランチタイムを行う中で、なにげない会話から信頼関係や、保護者同士の繋がりを大切にしている。
A-3 小学生への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・日々の打ち合わせや職員会議の際に、気になる子どもの状況を共有し合い、必要に応じて対応を検討している。 ・行事に参加して終わりというやり方ではなく、さらに「ちがうことをしてみたい・やってみよう」と、次に繋がるような働き掛けをしている。 ・「子どもまつり」「遠足」等の取り組みでチームワークの大切さや達成した喜びを一緒に味わうようにしている。気になる子がいれば、日誌に出来事を記入したり、打ち合せ時に口頭で伝えたり、職員全体で情報共有を心掛けている。 ・どの子に対しても気になること、支援すべき点等があると職員間で伝え合う。 ・自己決定、自己実現が大切であることを職員間の共通認識としている。実行委員会形式の取り組みにより、異年齢集団での取り組みとなり子ども達の意欲や達成感に繋がっている。 ・日々の利用者の多さに職員の余裕はなく、イレギュラーな事が起こった際に迅速に対応することが難しい。 ・子どもたち一人ひとりの様子について、職員間で情報交換しながら、対応・援助している。年間を通して、クラブ活動・キャンプ・おばけやしき・まつり等、子ども達と話し合いを通じて、自主性・社会性を育むことを大切に展開している。
A-4 中学生・高校生世代への対応を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・中高生が多く来館しているわけではないが、行事のボランティア等、定期的に力を発揮してくれている。 ・対人的な部分で問題を抱えている子の居場所となっている。 ・季節に応じた中高生企画を行っている。企画日でない日でも、放課後に卓球をしに来たり、マンガを読みに来たり、文化祭や体育の授業のダンス練習をしにくる中高生もいる。声掛けをして、部活やテスト勉強の話をしたりしている。 ・ふらっとあそびに来れる、話をしに来れる環境にあるものの日常的な利用は少ない。 ・中学校にニュースを全校配布するなどしているが、ここ数年子ども達の忙しさに拍車がかかっている気がするが、児童館にあそびに来て良い場所、自由に利用できることは、理解されていると思う。 ・中高生企画を毎月実施。また、地域の中学校に毎月ニュースを配布、イベントごと、ボランティアの受け入れも行っている。
A-5 子どもの権利を尊重した支援を行っている	<ul style="list-style-type: none"> ・「小学生企画会議」と称して、子ども達の思いを自由に出し合う機会を設けている。キャンプやこどもまつりなども子ども達の意見を聞いて進めている。 ・「ご意見箱」を設置し、子どもの意見、要望を聞ける環境である。 ・子どもからの意見がいつでも聞けるように「みんなの声」という用紙がある。 ・子どもの権利条約をアプローチに掲示する等、子ども自身にも、自分で選択し決定することが大切であることを働きかけている。 ・子どもにゆっくり向き合えるような、また、それに気付ける余裕がない。 ・年始に小学生会議を行い、子どもたちの意見を年間行事組み立てに反映する。また、年間を通じて各行事ごとに子ども達との会議を大切に意見を表明しそれを尊重しながら、活動・援助を行っている。

評価項目	自由記述
<p>A-6 配慮を要する児童・家庭への支援を行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・保護者からの相談は、必要に応じて、ゆっくりと話せるよう時間や場所など配慮している。 ・障がいのある児童への対応は、職員が足りない時もあり、充分に対応できていなかったのではないかと反省する時がある。 ・虐待については、学校や保育園とも連携し、児童相談所へも連絡している。 ・保護者から相談があった場合、その内容を日誌に記入し、職員全員が把握し、支援できるようにしている。 ・些細なことでもメール・電話・連絡帳で相談してもらえよう声を掛けている。視覚支援もしているが、しきれていない部分もある。 ・子どもの状況はできるだけ職員間で共有し、必要に応じて記録を取るようになっている。特に虐待の疑いがある子どもについては、連続して記録を取り続けるようになっている。 ・学童クラブには配慮を要する児童を受け入れており、家庭・保育園・小学校等と連携しながら、支援を行っている。また、児童館としても様々なかたちで情報をキャッチした場合には、適切に関係機関と連携。「親の会」を立ち上げて、配慮の必要な子どもの親同士が繋がることのできる場をつくっている。
<p>A-7 地域の児童の育成環境づくりを行っている</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・地域の各種団体と定期的に会議を持ち、地域の児童の様子や各団体の状況を共有している。 ・地域の方が手作りの人形やお下がりのおもちゃ・絵本等を寄付してくれたり、子どもが集団下校している時には、散歩・水やりのために外へ出てきては、挨拶をしながら子ども達を見守ってくれる関係ができていることが嬉しく思う。 ・地域との連携はネットワーク会議等で取れていると感じる。 ・地域の各種団体(子どもに関わる)とネットワークをつくり、お互いに情報交換や協力関係を構築している。その中で子どもと共により良い街づくり環境を考え啓発する場となっている。 ・地域の人との関わりはあるが、巻き込みでの取り組みは多くはできていない(意識はある)。 ・地域の諸団体と連携しながら、子育て講演会・季節行事・まつりなどを開催、また、地域の会議、行事等にも参加し、地域の中で役割を持って協力しながら、子育ての輪を広げている。ネットワーク会議を主催し、地域の中で、育成環境づくりを行っている。